

報告事項名 第2回新しい時代の特別支援学校の在り方検討委員会の概要報告について

特別支援教育課

第2回「新しい時代の特別支援学校の在り方検討委員会」会議概要

1 日時 令和2年7月20日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで

2 場所 徳島グランヴィリオホテル 1階 ヴィリオールーム

3 出席者

(1) 委員 13名中13名出席

(2) 県教委 教育次長, 特別支援教育課長, 事務局員5名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 検討会

①国府・板野支援学校の在籍者数予測について(大谷委員より)

②事務局からの説明

・徳島県の特別支援学校における教育活動

・他県の特別支援学校における特徴的な教育活動

③協議・意見交換

(4) その他

(5) 事務連絡

(6) 閉会

5 検討委員会委員から出された主な意見

(1) 国府・板野支援学校の在籍者数予測

- ・大谷委員より, 専門的な見地から「これまでの推移等を踏まえて予測すると, 今後しばらく, 在籍者数の増加傾向が続く可能性が高いのではないか」との見解が述べられた。

(2) 学校から地域に向けた活動

- ・特別支援学校の農作業で栽培した生産物を, 地元のスーパーだけでなく, 少し離れた地域のスーパーで, 学校名を付けて生徒の生産物として販売してもらうことも, 地域に向けた活動になると思う。
- ・プライベートブランドの開発を特別支援学校と一緒にしてみるのも面白いと思う。自分たちで作った商品をお客様に説明して買っていただき, その対価としてお金をいただくという体験が重要だと思う。
- ・国府支援学校の和太鼓クラブには, イベントのオープニング演奏をしていただいている。また, 特別支援学校児童と一緒に農作業の収穫体験, 地域の防災活動や掃除等に参加をさせていただいており, このような取組を続けていきたい。

(3) 地域の方が学校を訪れる活動

- ・オンラインショップを行うことによって、オンラインの仕組みやウェブサイトのことも学べる。店頭販売ができない生徒でも、オンラインショップの商品を自分で選び、写真を撮り、レビューを書いて人に見せることで、それを買ってもらえる喜びを感じることができ、より多くの人に関わる可能性が広がると思う。
- ・国府支援学校の校内に「コミュニティショップ」などがあれば、農作物やエコ作品などを販売することもできる。また、技能検定の練習で学んだことを発揮できる機会にもつながると思う。
- ・池田支援学校美馬分校のカフェだが、定期的実施することが大切である。それにより、お客さんが来てくださり、来客数が1年間で千人を超えた年もある。特別支援学級の校外学習や他団体の集まりの場として活用いただくことで、活気のある学校になっていると実感している。

(4) これから育っていく活動

- ・テレワークは非常に注目されてる技術・働き方である。テレワークを活用することで、障がいのある方々の働く場所が新たに広がっていくと考える。学校教育において、テレワーク体験等を積極的に取り入れていただきたい。
- ・各地域において「防災」というのは1つの大きな課題と思われる。宿泊施設や入浴施設等の生活施設を備える特別支援学校は、各地域の防災拠点になり得ると考える。各特別支援学校の防災機能強化と施設整備の充実をお願いしたい。

(5) 職業的自立を目指す生徒の活動

- ・食べ物を作ることは、どのような時代にもニーズがある。生活上必要な技能であり、就職にも繋がると思うため、調理の授業を大規模に取り入れることを強くお勧めする。併せて、地域の交流拠点にもつながるカフェレストランを併設する調理施設の設置を提案する。
- ・今後も職域の拡大が必要になってくると思う。新たな職域については、子どもたちに「プロ意識」や「自信」を与えられる「専門学科」の設置が必要であると考える。

(6) 重度から軽度まで参加できる活動

- ・学校卒業後の継続したスポーツ、文化・芸術活動を見据え、在学中から活動団体と共に活動するような交流の機会を取り入れていただきたい。また、卒業後に活動を継続するための「移動支援」についても合わせて考えていただきたい。
- ・県の「ボランティアパスポート」制度を活用するなどにより、大学生等のボランティアを学校に呼び込み、特別支援学校卒業生をはじめとした障がいのある人がスポーツ、文化・芸術活動を余暇活動として一生涯楽しむことを応援できるような施設やネットワークを備えた特別支援学校となってほしい。

第2回新しい時代の特別支援学校の在り方検討委員会
事務局からの説明内容と協議の柱

1. 検討委員への説明内容

(1) 徳島県の特別支援学校における教育活動

- ・ 学校から地域へ
和太鼓演奏，ボランティア清掃など
- ・ 地域の方が学校に
あんま・マッサージ，みまカフェ
- ・ これから育っていく活動
四国霊場札所でのお接待，テレワーク
- ・ 職業的自立にむけて
技能検定，新たな作業内容の導入（接客，介護など）
- ・ 重度から軽度まで
スポーツ，文化・芸術活動など

(2) 他県の特別支援学校における特徴的な教育活動

- ・ 軽度障がいの児童生徒の職業的自立の取組
農家やシェフとの商品開発，生活スキル検定，コース選択の制度
- ・ 中度～重度障がいの児童生徒の職業的・社会的自立の取組
ICT活用によるコミュニケーション学習，本格的な作品製作とネット販売

2. 協議の柱

テーマ：新たな時代の特別支援学校における「教育内容」

- (1) 学校から地域に向けた活動
- (2) 地域の方が学校を訪れる活動
- (3) これから育っていく活動
- (4) 職業的自立を目指す生徒の活動
- (5) 重度から軽度まで参加できる活動